

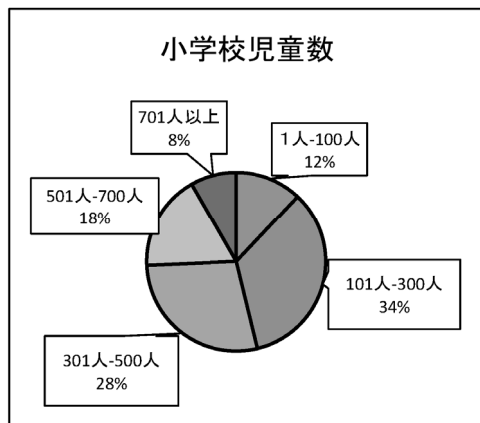
資料 1 特別支援学級設置学校の基本情報のまとめ

1 調査回答のあった学校規模及び特別支援学級の基礎情報

(1) 学校の児童生徒数

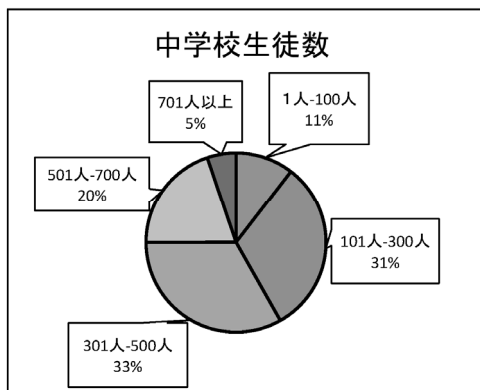
① 小学校

| | 児童数 | 割合 |
|------------|-----|-----|
| 1人から100人 | 270 | 12% |
| 101人から300人 | 766 | 34% |
| 301人から500人 | 630 | 28% |
| 501人から700人 | 391 | 17% |
| 701人以上 | 186 | 8% |



② 中学校

| | 生徒数 | 割合 |
|------------|-----|-----|
| 1人から100人 | 135 | 10% |
| 101人から300人 | 406 | 31% |
| 301人から500人 | 429 | 33% |
| 501人から700人 | 257 | 20% |
| 701人以上 | 67 | 5% |

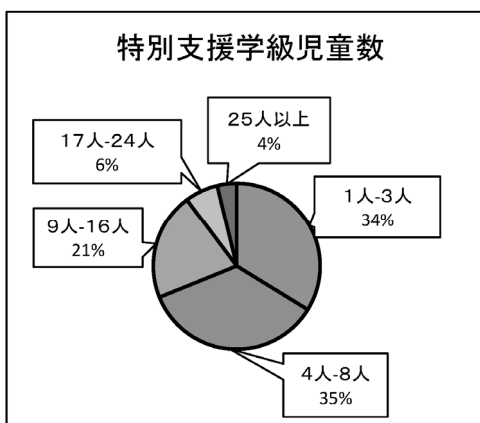


(2) 特別支援学級の児童生徒数

① 小学校

| | 児童数 | 割合 |
|----------|-----|-----|
| 1人から3人 | 762 | 34% |
| 4人から8人 | 776 | 35% |
| 9人から16人 | 476 | 21% |
| 17人から24人 | 150 | 7% |
| 25人以上 | 79 | 4% |

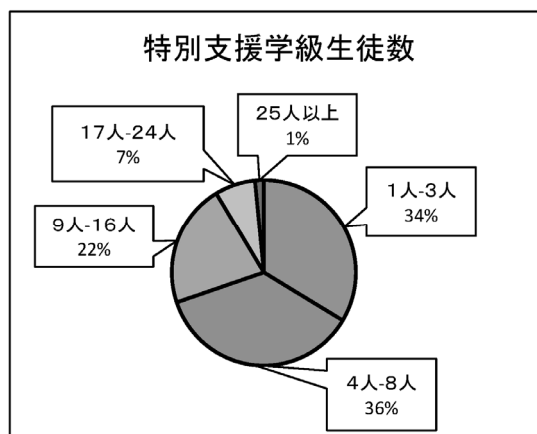
回答のあった小学校特別支援学級在籍児童数で多いのは、4人から8人と1人から3人であった。昨年度と比較して学級の在籍数が少なくなった。



② 中学校

| | 生徒数 | 割合 |
|----------|-----|-----|
| 1人から3人 | 435 | 34% |
| 4人から8人 | 468 | 36% |
| 9人から16人 | 279 | 22% |
| 17人から24人 | 92 | 7% |
| 25人以上 | 20 | 2% |

回答のあった中学校特別支援学級の在籍生徒数で多いのは、4人から8人と1人から3人であった。小学校と同じ傾向であった。

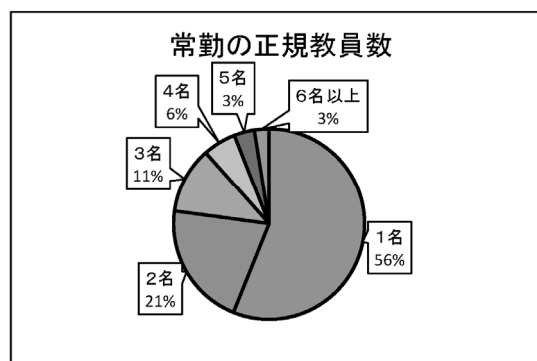


(3) 特別支援学級における常勤の正規教員数（県負担教員、常勤の講師含む）

① 小学校

| | 教員数 | 割合 |
|------|------|-----|
| 1名 | 1219 | 54% |
| 2名 | 482 | 21% |
| 3名 | 279 | 12% |
| 4名 | 126 | 6% |
| 5名 | 81 | 4% |
| 6名以上 | 56 | 2% |

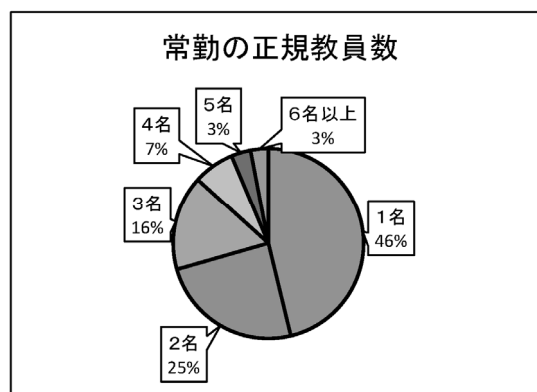
小学校特別支援学級に勤務する正規教員数は、1名が54%だった。昨年度は2名が最も多かった。



② 中学校

| | 教員数 | 割合 |
|------|-----|-----|
| 1名 | 598 | 46% |
| 2名 | 315 | 24% |
| 3名 | 209 | 16% |
| 4名 | 90 | 7% |
| 5名 | 43 | 3% |
| 6名以上 | 39 | 3% |

中学校特別支援学級に勤務する正規教員数は、1名が46%だった。次いで、2名、3名と続く。小学校特別支援学級正規教員と同じであった。

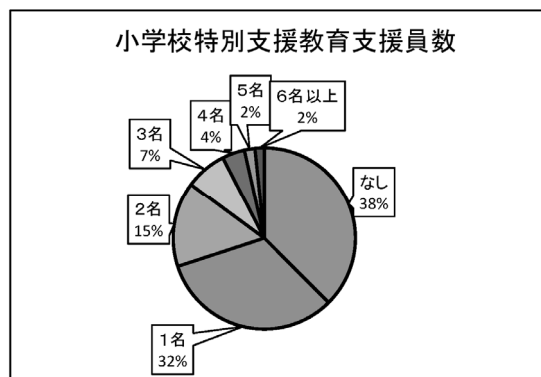


(4) 市区町村の特別支援教育支援員（各地区によって名称は異なる）数

① 小学校

| | 支援員数 | 割合 |
|------|------|-----|
| なし | 842 | 38% |
| 1名 | 727 | 32% |
| 2名 | 340 | 15% |
| 3名 | 165 | 7% |
| 4名 | 90 | 4% |
| 5名 | 42 | 2% |
| 6名以上 | 37 | 2% |

小学校では、特別支援教育支援員が配置されていない学級が38%、次いで1名が32%であった。

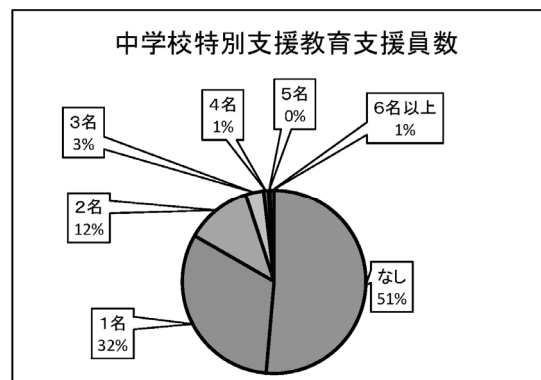


② 中学校

| | 支援員数 | 割合 |
|------|------|-----|
| なし | 665 | 51% |
| 1名 | 413 | 32% |
| 2名 | 151 | 12% |
| 3名 | 41 | 3% |
| 4名 | 11 | 1% |
| 5名 | 3 | 0% |
| 6名以上 | 10 | 1% |

中学校では、特別支援教育支援員が配置されていない学級が51%と約半数を占める。次いで1名が32%であった。

小学校と比較して配置されていない学校が多かった。



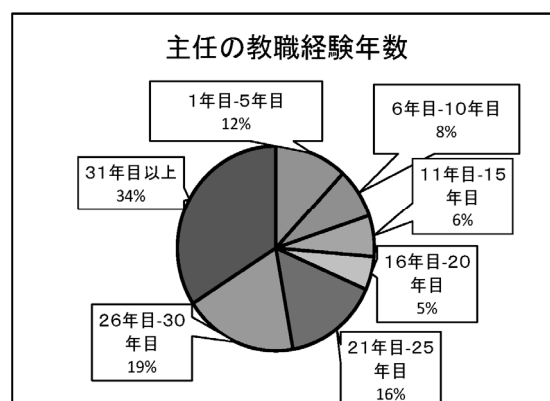
2 特別支援学級の主任教員について

(1) 教職経験年数

① 小学校

| 担当経験年数 | 人数 | 割合 |
|-----------|-----|-----|
| 1年目-5年目 | 267 | 12% |
| 6年目-10年目 | 178 | 8% |
| 11年目-15年目 | 146 | 7% |
| 16年目-20年目 | 118 | 5% |
| 21年目-25年目 | 350 | 16% |
| 26年目-30年目 | 420 | 19% |
| 31年目以上 | 764 | 34% |

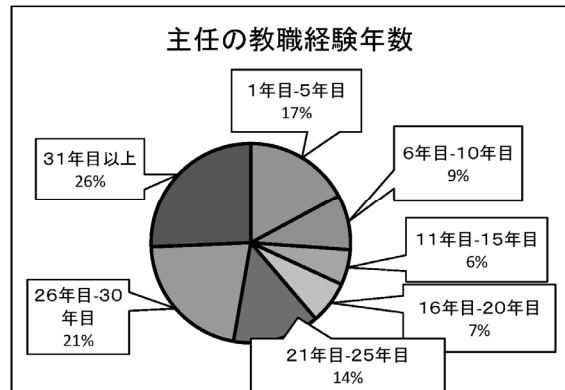
小学校特別支援学級の主任教員の教職経験年数は、31年以上が34%であった。21年目以上が69%を占めている。



② 中学校

| 担当経験年数 | 人数 | 割合 |
|-----------|-----|-----|
| 1年目-5年目 | 222 | 17% |
| 6年目-10年目 | 116 | 9% |
| 11年目-15年目 | 74 | 6% |
| 16年目-20年目 | 89 | 7% |
| 21年目-25年目 | 182 | 14% |
| 26年目-30年目 | 279 | 22% |
| 31年目以上 | 332 | 26% |

中学校特別支援学級の主任教員の教職経験年数は、31年以上が26%であった。21年目以上が61%を占めている。

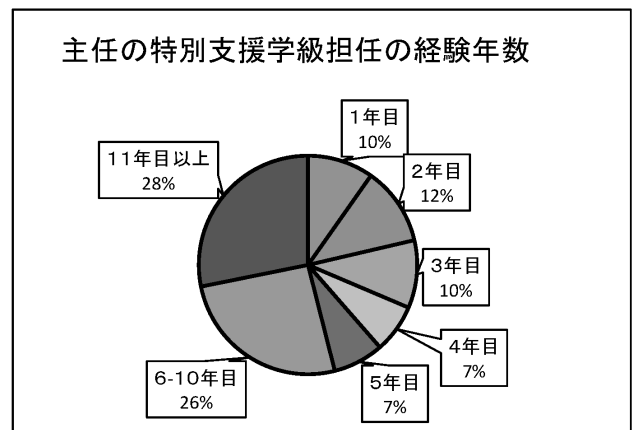


(2) 特別支援学級担任の経験年数

① 小学校

| 担当経験年数 | 人数 | 割合 |
|--------|-----|-----|
| 1年目 | 219 | 10% |
| 2年目 | 260 | 12% |
| 3年目 | 225 | 10% |
| 4年目 | 161 | 7% |
| 5年目 | 168 | 7% |
| 6-10年目 | 578 | 26% |
| 11年目以上 | 632 | 28% |

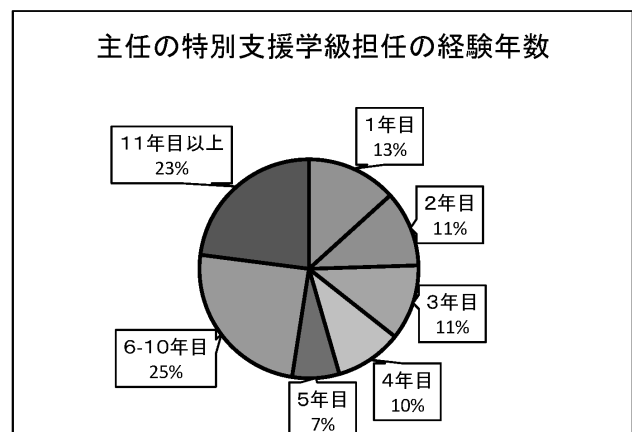
小学校特別支援学級担任の経験年数では、11年目以上が28%と多かった。6年目～10年目と合わせると54%と約半数を占める。



② 中学校

| 担当経験年数 | 人数 | 割合 |
|--------|-----|-----|
| 1年目 | 172 | 13% |
| 2年目 | 145 | 11% |
| 3年目 | 144 | 11% |
| 4年目 | 128 | 10% |
| 5年目 | 90 | 7% |
| 6-10年目 | 318 | 25% |
| 11年目以上 | 297 | 23% |

中学校特別支援学級担任の経験年数は、6年目から10年目が25%、11年目以上が23%と合わせるとおよそ半数を占める。小学校と同様の傾向である。

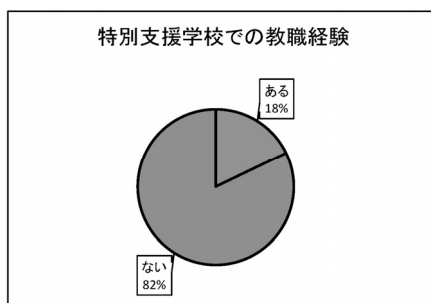


(3) 特別支援学校の経験の有無

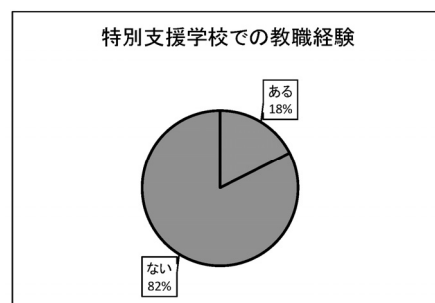
① 小学校

| | | |
|----|------|-----|
| ある | 401 | 18% |
| ない | 1842 | 82% |

小学校



中学校



② 中学校

| | | |
|----|------|-----|
| ある | 227 | 18% |
| ない | 1067 | 82% |

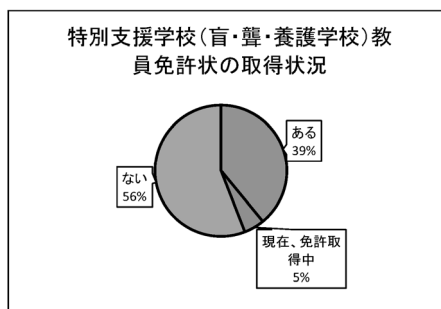
小中学校特別支援学級の主任教員の特別支援学校での経験については、小中学校共に18%程度が経験者である。

(4) 特別支援学校（盲・聾・知的）教員免許状の所得状況

① 小学校

| | | |
|----------|------|-----|
| ある | 876 | 39% |
| 現在、免許取得中 | 113 | 5% |
| ない | 1254 | 56% |

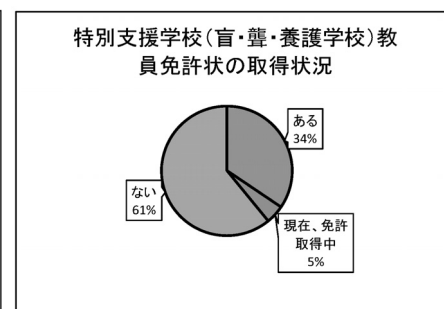
小学校



中学校

② 中学校

| | | |
|----------|-----|-----|
| ある | 446 | 34% |
| 現在、免許取得中 | 60 | 5% |
| ない | 788 | 61% |

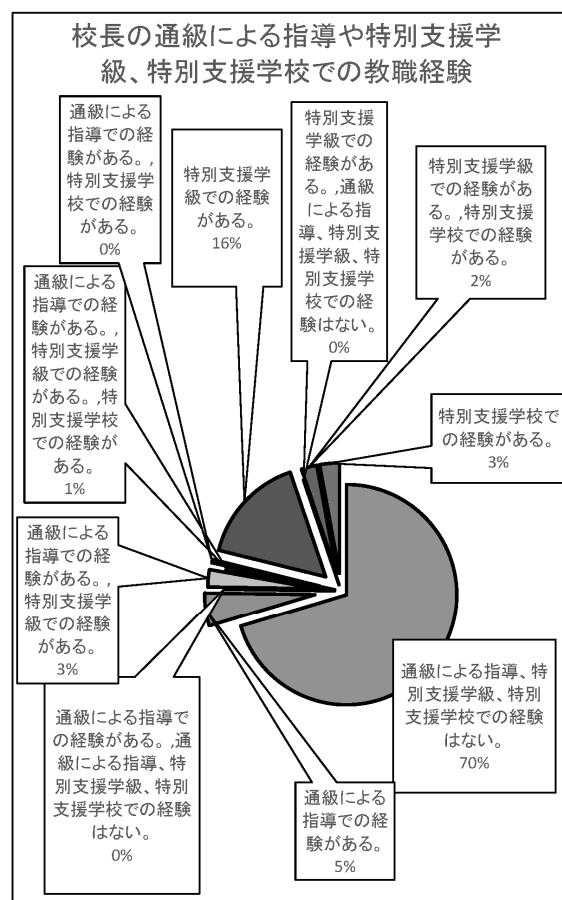


小中学校特別支援学級の主任教員の特別支援学校の免許状の取得状況は、現在習得中を含めると40%程度であった。

3 調査を回答された校長の通級による指導や特別支援学級、特別支援学校での教職経験の有無（管理職での経験を含む）

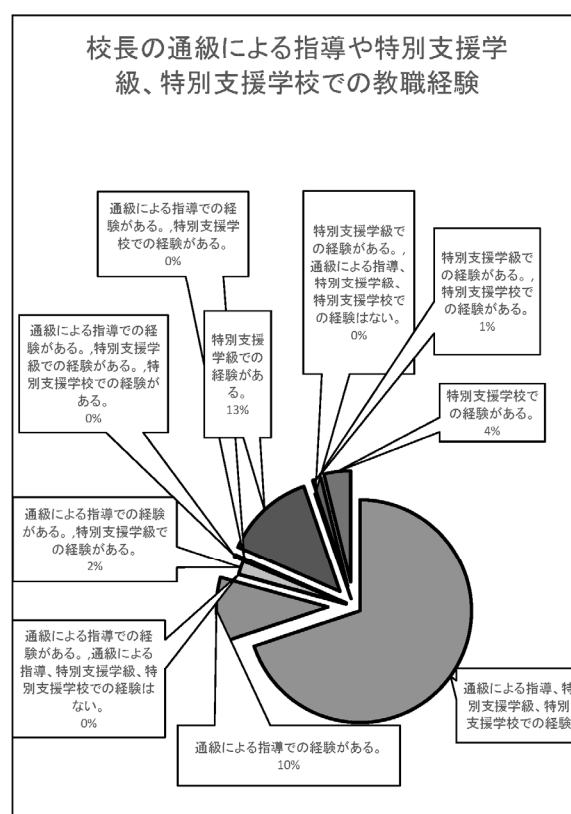
| | 小学校 | | 中学校 | |
|--|------|-----|-----|-----|
| 通級による指導、特別支援学級、特別支援学校での経験はない。 | 1578 | 70% | 904 | 70% |
| 通級による指導での経験がある。 | 109 | 5% | 122 | 10% |
| 通級による指導での経験がある。通級による指導、特別支援学級、特別支援学校での経験はない。 | 1 | 0% | 0 | 0% |
| 通級による指導での経験がある。特別支援学級での経験がある。 | 57 | 3% | 26 | 2% |
| 通級による指導での経験がある。特別支援学級での経験がある。特別支援学校での経験がある。 | 13 | 1% | 4 | 0% |
| 通級による指導での経験がある。特別支援学校での経験がある。 | 11 | 0% | 0 | 0% |
| 特別支援学級での経験がある。 | 357 | 16% | 170 | 13% |
| 特別支援学級での経験がある。通級による指導、特別支援学級、特別支援学校での経験はない。 | 1 | 0% | 2 | 0% |
| 特別支援学級での経験がある。特別支援学校での経験がある。 | 51 | 2% | 16 | 1% |
| 特別支援学校での経験がある。 | 65 | 3% | 50 | 4% |

小学校



学校の校長の特別支援学級、通級による指導、特別支援学校の教職経験については、何かしら経験をしてきた校長が1/3と少ない。関わってこなかった校長は、小中学校共に70%である。

中学校



資料2 アンケート調査項目

平成27年度 全特協 全国調査回答用紙（小中学校共通）

質問には、記述あるいは該当するア～サで御回答ください。

なお、「その他」を選ばれた場合は、記述にて御回答ください。

質問1 都道府県名を御記入ください。（例 ～県、～府等）

質問2 学校名を御記入ください。（例 ～市立から学校等）

質問3 全校の児童生徒は何人ですか。

- ア 1人～100人
- イ 101人～300人
- ウ 301人～500人
- エ 501人～700人
- オ 701人以上

質問4 特別支援学級の児童生徒は何人ですか。

- ア 1人～3人
- イ 4人～8人
- ウ 9人～16人
- エ 17人～24人
- オ 25人以上

質問5 アンケートにご回答いただく学級の種別を御回答ください。

- ア 知的障害
- イ 自閉症・情緒障害

質問6 貴校の特別支援学級の教育課程編成は、概ね次のどれに当たりますか。

- ア 学年相応の教科等＋自立活動
- イ 下学年の教科等（一部学年相応の教科等を含む）＋自立活動
- ウ 知的障害特別支援学校教科＋（下学年の教科）＋自立活動
- エ 主として自立活動

質問7 特別支援学級における常勤の正規教員数は何名ですか。（県費負担教員、常勤の講師を含む）

- ア 1名
- イ 2名
- ウ 3名
- エ 4名
- オ 5名
- カ 6名以上

質問8 市（区）町村採用の特別支援教育支援員（名称は各地域で異なります。）は何名ですか。

- ア なし
- イ 1名
- ウ 2名
- エ 3名
- オ 4名
- カ 5名
- キ 6名以上

質問9 貴校の特別支援学級の主任についておうかがいします。

その主任の教職経験年数は何年ですか。

- ア 1年目～ 5年目
- イ 6年目～10年目
- ウ 11年目～15年目
- エ 16年目～20年目
- オ 21年目～25年目
- カ 26年目～30年目
- キ 31年目以上

質問10 その主任の特別支援学級の経験年数は何年ですか。

- ア 1年目
- イ 2年目
- ウ 3年目
- エ 4年目
- オ 5年目
- カ 6～10年目
- キ 11年目以上

質問11 その主任は、以前、特別支援学校での教職経験がありますか。

- ア ある
- イ ない

質問12 その主任の特別支援学校（盲・聾・養護学校）教員免許状の取得状況を御回答ください。

- ア ある
- イ ない
- ウ 現在、免許取得中

質問13 御回答いただいている校長先生自身について御回答ください。

ご自身は、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校での教職経験（校長職での経験含む）はありますか。（複数回答可）

- ア 通級による指導での経験がある。
- イ 特別支援学級での経験がある。
- ウ 特別支援学校での経験がある。
- エ 通級による指導、特別支援学級、特別支援学校での経験はない。

質問14 文部科学省検定済み教科書（以下、検定教科書）の活用している状況について国語と算数あるいは数学の検定教科書の選択状況について御回答ください。

- ア 国語と算数あるいは数学において選択している
→質問15へお進みください
- イ 国語と算数あるいは数学において選択していない。
→質問23へお進みください。

質問15 国語の検定教科書を活用している具体的な状況を御回答ください。

- ア 通常の学級同様、教科書に書かれている全ての内容を扱っている。
- イ 活用できる内容を取捨選択して扱っている。
- ウ その他

質問16

質問15で「その他」を選んだ方は、具体的な活用状況を御記入ください。

質問 1 7

国語の検定教科書を活用する際、障害の特性等に応じた工夫について御回答ください。

(複数回答可)

- ア 漢字に読み仮名を付ける。
- イ 文字のポイントを大きくする。
- ウ 児童生徒の興味・関心のある内容を取り扱う。
- エ 実生活に生かせる内容を取り扱う。
- オ 児童生徒の実態に合わせて、教科書の内容を変えて取り扱う。
- カ 挿絵や写真等、児童の理解しやすい内容を取り扱う。
- キ 言葉と動作、言葉と具体物・絵が結びついている内容を取り扱う。
- ク 交流学习で行う内容を取り扱う。
- ケ 季節や行事に合う内容を取り扱う。
- コ 書き込みができる内容を取り扱う。
- サ その他

質問 1 8

質問 1 7 で「その他」を選んだ方は、具体的に工夫されていることを御記入ください。

質問 1 9 算数あるいは数学の検定教科書を活用している具体的な状況を御回答ください。

- ア 通常の学級同様、教科書に書かれている全ての内容を扱っている。
- イ 活用できる内容を取捨選択して扱っている。
- ウ その他

質問 2 0 質問 1 9 で「その他」を選んだ方は、具体的な活用状況を御記入ください。

質問 2 1 算数あるいは数学の検定教科書を活用する際、障害の特性等に応じた工夫について御回答ください。(複数回答可)

- ア 繰り返し学習できる内容を取り扱う。
- イ 数字や文字のポイントを大きくする。
- ウ 児童生徒の興味・関心のある内容を取り扱う。
- エ 実生活に生かせる内容を取り扱う。
- オ 児童生徒の実態に合わせて、教科書の内容を変えて取り扱う。
- カ 挿絵や写真等、児童の理解しやすい内容を取り扱う。
- キ 数字と具体物・絵が結びついている内容を取り扱う。
- ク 交流学习で行う内容を取り扱う。
- ケ 季節や行事に合う内容を取り扱う。
- コ 書き込みができる内容を取り扱う。
- サ 基礎的内容のみ取り扱う。(応用、発展問題は扱わない。)
- シ 下学年の検定教科書と併用している。
- ス その他

質問 2 2 質問 2 1 で「その他」を選んだ方は、具体的に工夫されていることを御記入ください。

質問 2 3 知的障害者用の文部科学省著作教科書（以下 ☆本）を選択しなかった理由を記述について御回答ください。

質問 2 4

☆本と学校教育法附則第九条による教科書（以下、一般図書）について

※☆本は、平成 22 年度改訂され、小学校では国語、音楽に 3 種類そして算数には 4 種類、中学校では国語・数学・音楽に 3 種類あります。

国語の☆本を選択できるようにするための方策について次のア～ケから御回答ください。

（複数回答可）

- ア 障害の特性に合わせた内容にする。
- イ 発達段階に合わせた内容にする。
- ウ 理解がしやすい絵や写真にする。
- エ 実生活に合わせた内容にする。
- オ 年間通して使用できるようにする。
- カ グループ指導では統一して使用できるようにする。
- キ 交流学习を踏まえた内容にする。
- ク 系統性のある内容にする。
- ケ その他

質問 2 5 質問 2 4 で「その他」を選んだ方は、具体的な内容を御記入ください。

質問 2 6

算数あるいは数学の☆本を選択できるようにするための方策について次のア～ケから御回答ください。

（複数回答可）

- ア 障害の特性に合わせた内容にする。
- イ 発達段階に合わせた内容にする。
- ウ 理解がしやすい絵や写真にする。
- エ 実生活に合わせた内容にする。
- オ 年間通して使用できるようにする。
- カ グループ指導では統一して使用できるようにする。
- キ 交流学习を踏まえた内容にする。
- ク 系統性のある内容にする。
- ケ その他

質問 2 7 質問 2 6 で「その他」を選んだ方は、具体的な内容を御記入ください。

質問 2 8

一般図書を選択できるようにするための方策について次のア～ケから御回答ください。

(複数回答可)

※特定の一般図書ではなく、一般図書全般を想定して御回答ください。

- ア 障害の特性に合わせた内容にする。
- イ 発達段階に合わせた内容にする。
- ウ 理解がしやすい絵や写真にする。
- エ 実生活に合わせた内容にする。
- オ 年間通して使用できるようにする。
- カ グループ指導では統一して使用できるようにする。
- キ 交流学习を踏まえた内容にする。
- ク 系統性のある内容にする。
- ケ その他



質問 2 9 質問 2 8 で「その他」を選んだ方は、具体的な内容を御記入ください。

質問 3 0 検定教科書の活用に当たっての課題と要望

検定教科書及び検定教科書用の教師用指導書について課題や要望がありましたら御記入ください。

(自由記述)

あとがき

今年度も全国特別支援学級設置学校の校長先生方の多大なご理解とご協力のもと、調査を実施することができましたことに、心より感謝申し上げます。特に各都道府県の理事の皆様におかれましては、各地区10%の特別支援学級設置小中学校の選定、調査の依頼等にご尽力いただきましたお陰で、有効回答校数は9.5%に達しました。また、回答はインターネット上のホームページにアクセスしていただく方法での調査でしたが、昨年度以上にスムーズに実施することもできました。

さて、今年度は、特別支援学級に関する基本調査を経年で調査しながら、昨年度、明らかになった全国の多くの特別支援学級で選択されている検定教科書の具体的な活用状況等を把握するために調査をいたしました。

全体考察で触れましたが、調査結果を通して検定教科書の活用状況が詳しく把握することができました。その中でも、特に検定教科書を選択している多くの知的障害学級及び自閉症・情緒障害学級では、検定教科書をそのまま全ての内容を取り扱う学級が20%と少なく、障害の特性等、子どもの実態に応じて、記載された内容を取捨選択したり、下学年の教科書を使ったりする等の工夫をしていることが分かりました。自閉症・情緒障害学級では、基礎的な内容の取り扱いと下学年（中学校は小学校）の教科書との併用が多く見られたことも納得できる結果でした。さらには、検定教科書の記載された内容を指導する際、実生活に生かせる内容や児童・生徒の興味関心のある内容に視点を当て取捨選択している現状からも障害の特性に応じて取り扱っていることがうかがえました。

検定教科書と教科用指導書の要望につきましても、発達障害の子どもへの支援や指導に関する記載として、現在、全国各地で成果を上げている通常の学級におけるユニバーサルデザインの考え方を取り入れた授業実践を求める声が多くありました。特別支援教育が通常の学級の指導に定着していることを実感しました。

今回、☆本の調査も行いましたが、実際に☆本を手にとって回答していただいた会員が多く、☆本の記載された内容を肯定的に評価する意見が多数寄せられました。今後は、☆本の内容を理解できる機会とともに、実際に授業の中で活用できる機会を設ける必要があると思いました。

今回の調査を通して、特別支援学級における検定教科書や☆本、一般図書の活用の状況をまとめ、いくつかの提言をすることができました。なお、今回の調査に関する各都道府県のデータは後日、お送りいたしますので、ご活用いただきますようよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、今回の調査を実施、集計、結果考察をするにあたり、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 主任研究員 小澤 至賢 様の多大なご協力をいただきました。心よりお礼申し上げます。

| | | |
|-----------------|-----------|-------------|
| 全国特別支援学級設置学校長協会 | 副会長（調査担当） | 川崎 勝久 |
| | 研究部長 | 喜多 好一 |
| | 研究部員 | 大場 一輝 柏原 聖子 |
| | | 麻生 隆久 稲村 勝成 |
| | | 勝田 敏行 平川 惣一 |

| | |
|------|---|
| 発行年月 | 平成 28 年 1 月 |
| 編集者 | 全国特別支援学級設置学校長協会調査部 |
| 協力 | 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 |
| 発行者 | 全国特別支援学級設置学校長協会 会長 阿部 謙策 東京都渋谷区鳩ヶ谷 2-36-1 ダイヤパレス鳩ヶ谷 404 号 電話・FAX 03-6276-6883 |
| 印刷所 | 株式会社ソフティス 東京都江東区亀戸 7-34-5 電話 03-3638-4973 FAX 03-3638-4970 |